

A series of overlapping, wavy lines in various colors (red, orange, yellow, green, blue, purple) that flow from the left side of the page towards the right, ending at the title.

# 用語集

## あ

アウトソーシング	一般的には、業務を外部に委託することを指すが、ここでは、民間事業者への委託や他の自治体等との事務の共同化など組織外のノウハウを活用することを表す	p.31 他
赤潮 (あかしお)	プランクトンの異常増殖により、海などの水域の水が変色する現象	p.29 他
アセットマネジメント	施設機能・コスト・リスクをバランスさせるための技術・戦略のこと。ここでは、社会ニーズに対応した下水道事業の役割を踏まえ、下水道施設（資産＝アセット）に対し、施設管理に必要な費用・人員を投入（経営管理、執行体制の確保）することで、良好な下水道事業サービスを持続的に提供するための事業運営のこと	p.62 他
圧送管 (あっそうかん)	ポンプ設備から下水を圧力輸送するための管路施設。	p.78 他
インフラマネジメント	老朽化に対応した適切な維持保全や更新のほか、維持管理・改修・更新費の縮減、負担の平準化について、民間活力の活用等を踏まえながら取り組むこと	p.12 他
維持管理 (いじかんり)	下水道施設の保守・点検、清掃等の下水道機能を保持するための行為で工事を伴わないもの	
雨水浸透施設 (うすいしんとうしせつ)	屋根や敷地に降った雨水を地中に浸透させるための施設。「浸透管」や「雨水浸透ます」などがある。	p.5 他
雨水浸透能力 (うすいしんとうのうりょく)	流域や排水区等に設置した雨水浸透施設の浸透量の合計値	p.25 他
雨水浸透ます (うすいしんとうます)	側面に多数の孔（あな）を開け、雨水を地下に浸透させる柵(ます)のこと。市内の既存の一般住宅や個人の所有する集合住宅などの場合、雨どいの近くで1 m程度の広さがある場所を対象とする市の設置支援制度を活用することで、1宅地当たり6基まで市の費用負担で雨水浸透ますを無料で設置できる	p.25 他
雨水貯留施設 (うすいちよりゅうしせつ)	雨水を一時的に貯める施設。公園や駐車場などの地表面に貯留するタイプと、建物の地下に貯留するタイプがある	p.23 他
雨水吐き室 (うすいばきしつ)	合流式の下水道では、雨天時にある一定量までは流域下水道幹線管渠を経て処理場(森ヶ崎水再生センター)へ送水し、一定量以上は分水して河川等の水域に放流するため、越流ぜきなどを備えた施設のこと	p.27
雨水流出抑制 (うすいりゅうしゅつよくせい)	雨が降ったときにその雨水を一時的に溜めたり、浸透させたりすることにより、河川や下水道に直接的に流出するのを抑制すること	p.23 他
エコセメント	都市ごみ焼却灰などの廃棄物を主原料としたセメント	p.29 他
枝線 (えだせん)	取付管からの汚水を運ぶ下水道管のこと ※図 4-20「浸透ます、排水設備と公共下水道の関係イメージ図」関連用語	p.83
大雨特別警報 (おおあめとくべつけいほう)	大雨が降り続き、降水量が警報基準をはるかに超えるような数十年に一度の大雨となるおそれが大きいときに発表する特別警報のこと	p.73

汚水処理原価 (おすいしよりげんか)	P122「経営指標の概要」を参照	p.34
汚水処理システム (おすいしよりすてむ)	下水道施設などの汚水処理施設の老朽化対策や改築・更新等を進めていくうえで、より効率的な汚水処理施設の整備・運営管理を適切な役割分担の下、計画的に実施していくための仕組み。汚水処理システム構築には、市町村と都道府県の連携により着実に実行可能な都道府県単位での構想が必要となる	p.10
汚水ます (おすいます)	お風呂やトイレの水などの家庭排水を公共下水道へ排水するための枡(ます)。汚水のおいが上がってこないよう、密閉されている。市が管理するのは「公共汚水ます(公ます/こうます)」と呼び区別している。	p.83
汚濁負荷量 (おだくふかりょう)	家庭、事業所、工場などから排出される有機物や窒素、リン等の汚濁物質のこと。処理施設の設計や放流水域の水質計画などに用いられる。一般的には、汚濁物質の時間あるいは日当たりの量で表わし、「汚濁負荷量 = 汚濁濃度 × 排水量」で計算する	p.28
<h2>か</h2>		
改築・更新 (かいちく・こうしん)	改築は、長く使用し老朽化した施設を長寿命化等により作り替え、所定の耐用年数を新たに確保すること。更新を含む場合もあるがここでは区別している。 更新は既存の施設を新たに置き換えること	p.59 他
かい離 (かいり)	結びつきが離れること	p.15 他
改良 (かいりょう)	施設の一部を作り替えることにより、施設の寿命である耐用年数を伸ばしたり、現状よりも機能を向上させたりすること。	p.92 他
街路網 (がいろもう)	市街地に整備された道路のネットワーク	p.3 他
可とう(撓)化 (かとうか)	曲がったり、伸びたり、縮んだりできる構造にすること	p.18 他
河道掘削 (かどうくつさく)	洪水時の水位を低下させるため、河道を掘って水が流れる面積を広くすること	p.54 他
可搬式排水ポンプ (かはんしきはいすいぽんぷ)	持ち運びや移動が可能な形状の排水ポンプ	p.24 他
管渠 (かんきょ)	下水(汚水や雨水)を流すための管。円形、 <sup>くほい</sup> 矩形(長方形)などの断面形状がある	p.2 他
環境フェア (かんきょうふゑあ)	毎年 6 月の環境月間にあわせ、市民に環境について関心と理解を深めていただくことを目的に開催しているイベントのこと	p.32 他
管口カメラ (かんぐちかめら)	マンホールに接続される管路材のマンホール側端部またはその周辺を映すためのカメラ	p.21 他
幹線、幹線管渠 (かんせん、かんせんかんきょ)	(汚水ます又は雨水ますと接続する) 取付管からの下水を運ぶ下水道管(枝線)からの汚水を取り込む、大きな下水道管のことで、主に下水道法施行規則に定める主要な管渠(下水排除面積が 20ha 以上の管渠)を指す。なお、取付管と下水道管(枝線)の接続イメージ図は p.83 を参照	p.2 他

涵養 (かんよう)	地表の水(降水や河川水)が帯水層(礫(れき)や砂からなる、かなりの量の水を輸送し産出することのできる透水性のよい地層)に浸透し、地下水が供給されること	p.23 他
管路, 管路施設 (かんろ, かんろしせつ)	管渠, マンホール, 雨水吐き室, 吐口, ます(汚水ます), 取付管の総称	p.5 他
企業債 (きぎょうさい)	地方公共団体が地方公営企業の建設, 改良等に要する資金を借り入れるために発行する地方債のこと。地方債とは, 地方公共団体が財政上必要とする資金を外部から調達することによって負担する債務で, その履行が一会計年度を超えて行われるものこと	p.34 他
企業債残高対事業規模比率 (きぎょうさいざんだかたいじぎょうきぼひりつ)	P122「経営指標の概要」を参照	p.77
気候変動適応法 (きこうへんどうてきおうほう)	地球温暖化その他の気候の変動に起因して、生活、社会、経済及び自然環境における気候変動影響が生じていること並びにこれが長期にわたり拡大するおそれがあることに鑑み、気候変動に適応し、被害の防止又は軽減その他生活の安定、社会若しくは経済の健全な発展又は自然環境の保全を図る法律	p.11
軌道 (きどう)	電車などの軌条車両を走らせるための構造物からなる道。道床・枕木(まくらぎ)・レールなどからなる	p.57
きょう雑物 (きょうざつぶつ)	下水に含まれる固形物で、管渠内の堆積物の原因となる物質。雨水吐口やポンプ場の放流先では、雨天時にビニル、合成樹脂、ゴム、皮革類、草木、わら類などが散乱し、景観上の課題となる	p.5 他
強靱化 (きょうじんか)	レジリエントを参照	p.9
共同化 (きょうどうか)	下水処理などの維持管理を共同で行ったり、事務を共通化すること等により、事業運営基盤の強化を図ること	p.69
業務継続計画 (ぎょうむけいぞくけいかく)	災害時に行政自らも被災し、人、物、情報等利用できる資源に制約がある状況下において、優先的に実施すべき業務(非常時優先業務)を特定するとともに、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保等をあらかじめ定める計画。事業継続計画やBCP(Business Continuity Planning)という場合もある。	p.19 他
供用 (きょうよう)	多くの人々が使用するために施設を提供すること	p.4
緊急道路障害物除去路線 (きんきゅうどうろしょうがいぶつじょきよるせん)	災害時等の緊急時における活動人員や物資を円滑・確実に輸送するために、調布市等が指定する道路のこと	p.19
グリーストラップ	グリース阻集器とも呼ばれ、油分を含む排水から簡便に油分を分離除去する装置のこと ※図 4-19「下水道に油を流さない」イメージ図関連用語	-
経営戦略 (けいえいせんりやく)	地方公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画。すべての公営企業が令和 2 年度までに「経営戦略」を策定するよう総務省から要請されている。	p.14

経営比較分析 (けいえいひかくぶんせき)	貸借対照表・損益計算書などの財務諸表などを分析・比較・検討して、企業(事業)の財政状態および経営成績の良否を明らかにすること	p.75 他
経費回収率 (けいひかいしゅうりつ)	P122「経営指標の概要」を参照	p.34
激甚災害 (げきじんさいがい)	地方財政の負担を緩和し、又は被災者に対する特別の助成を行うことが特に必要と認められる災害が発生した場合に、中央防災会議の意見を聴いた上で、国が指定する災害	p.7
下水 (げすい)	生活若しくは事業（耕作の事業を除く）に起因・付随する排水（污水）又は雨水	p.2 他
下水汚泥 (げすいおでい)	下水道により家庭などから集められた下水を下水処理場で処理する際に発生する汚泥	p.5 他
下水処理場、終末処理場 (げすいしよりじょう, しゅうまつしよりじょう)	下水を最終的に処理して河川その他の公共用水域に放流するために、下水道の施設として設けられる処理施設及びこれを保管する施設。下水道法では「終末処理場」と呼称し、東京都下水道局では「水再生センター」と呼称。	p.2 他
下水道、下水道施設 (げすいどう, げすいどうしせつ)	下水を排除するために設けられる排水管、その他の排水施設（かんがい排水施設を除く。）、これらに接続して下水を処理するために設けられる処理施設（し尿浄化槽を除く。）またはこれらの施設を補完するために設けられるポンプ施設その他の施設の総体をいう	p.2 他
下水道処理人口普及率 (げすいどうしよりじんこうふきゅうりつ)	住民基本台帳上の行政区域の人口に対する下水道を使用できる人口の割合を示す $\left( \frac{\text{処理区域内人口}}{\text{行政人口}} \right) \times 100 (\%)$	p.2 他
下水道台帳 (げすいどうだいちょう)	下水道法第 23 条の規定により、公共下水道管理者が調製し保管する公共下水道の台帳のことで、管渠やマンホール等の位置、形状、勾配、区間距離、管底高、下水の流れの方向等を記載したもの	p.35 他
下水道法 (げすいどうほう)	下水道の整備を行い、都市の健全な発達、公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全を図ることを目的とした法律。 下位法令に下水道法施行令・下水道法施行規則がある。	p.27 他
下水熱 (げすいねつ)	未処理下水または処理水の持つ熱。温度差を用いることでエネルギーを得ることができる	p.64 他
下水熱ポテンシャルマップ (げすいねつぽてんしゃるまっぷ)	下水熱利用を検討する事業者に対し、下水熱の理論上の存在量や存在位置の情報を伝える地図のこと	p.65
下水排除面積 (げすいはいじょめんせき)	公共下水道を利用して下水を排除できる地域の面積	p.19
減価償却費 (げんかしやうきやくひ)	長期間にわたって使用される固定資産の取得(設備投資)に要した支出を、その資産が使用できる期間にわたって費用配分したときの各期に計上される費用のこと	p.89 他
高圧受電設備 (こうあつじゆでんせつび)	高圧で受電するための機器一式を金属製の箱に収めた設備。キュービクルとも言う。多くの電気を必要とする施設に設置される	p.78
広域化 (こういきか)	複数事業の管理の全部または一部を一体的に行う等の広域的な連携により、事業運営基盤の強化を図ること	p.69

公営企業会計 (こうえいきぎょうかいけい)	経営・資産等の状況を把握し経営基盤の強化や財政マネジメントの向上等の確に取組むために導入した会計制度。発生主義・複式簿記により企業会計に類似した会計方式で経理を行う。	p.10 他
公益性 (こうえきせい)	社会一般（不特定かつ多数の者）の利益の増進に寄与すること。公営企業の事業は、日常生活に欠くことができないサービスとして安定的かつ継続的に供給が必要であり、地方公共団体が行う一般行政事務との密接な関連に基づいて実施することが適当な事業である。	p.81
公共汚水ます (こうきょうおすいます)	「汚水ます（おすいます）」を参照	p.83 他
公共下水道 (こうきょうげすいどう)	下水道法上の用語で、市町村で設置及び管理する下水道のこと。都道府県が設置・管理する流域下水道に接続する場合には、「流域下水道関連公共下水道」と称する	p.4 他
公共下水道事業計画 (こうきょうげすいどうじぎょうけいかく)	下水道法第 4 条に基づき、下水道施設の配置、構造、能力等を定めた計画。認可を受けた内容に変更がある場合には、国や都と協議（調布市では 5 年毎に認可変更を申請）を行っている	p.4
公共用水域 (こうきょうようすいいき)	水質汚濁防止法第 2 条で定める水域のことで、河川、湖沼、港湾、沿岸海域、その他公共的な水域及びこれに接続する水路その他公共の水路をいう。ただし、下水道法で定めている公共下水道及び流域下水道であって、下水処理場を有しているもの、また、この流域下水道に接続している公共下水道は除く	p.9 他
高度処理 (こうどしり)	活性汚泥法等の高級処理(二次処理)過程を経た下水を更に高度な水質とするための処理過程のこと 除去する物質の種類や放流水質に応じて様々な処理方法がある	p.29 他
合流式下水道 (ごうりゅうしきげすいどう)	汚水と雨水を分離することなく同一の管渠で排除する方式	p.3 他
合流式下水道改善 (ごうりゅうしきげすいどうかいぜん)	一定量以上の降雨時に未処理下水の一部がそのまま放流される合流式下水道による水質汚濁を改善すること。平成 15 年度の下水道法施行令の改正で、雨水吐の構造基準や雨天時の放流水質基準が定められた。	p.5 他
<b>さ</b>		
財務諸表 (ざいむしよひょう)	取引を複式簿記により記録し、帳簿に転記することで作成する、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の決算までの 1 年間の自社の財政状態や経営成績をまとめた計算書のこと	p.35
シールド工法 (しーどこうほう)	地面を掘り起こして管を設置する「開削工法」に対し、シールドで前面の土砂部分の崩壊を防ぎながら、掘削・推進を行い、テール部で下水道管を組み立てることにより、管を埋設する工法 ※図 2-2「長寿命化対策の実施箇所」関連用語	p.20
自然流下方式 (しぜんりゅうかほうしき)	下水道管に勾配を付けて、汚水を自然に下流へ流す方式。固形物も流さなくてはならない下水道においては、清水を流す水道（上水道）のように圧力で流すと管路が損傷するため、自然流下を原則に計画されている。管路の勾配は、緩くすると管路内に土砂や汚物が堆積しやすく、勾配を急にすると流速が大きくなり、管路が摩耗しやすいため、適正な勾配を定めている。	p.2

資本費平準化債 (しほんひへいじゆんかさい)	企業債の元金償還期間と事業用施設の減価償却期間が異なることにより生じる元金償還額と減価償却費の差額を後年度に繰り延べて平準化するために発行する地方債	p.81
シミュレーション	現実に想定される条件を取り入れて、実際に近い状況をつくり出すこと 豪雨時に管渠に流入した雨水がどのように流れるかを再現（浸水シミュレーション）したり、下水道経営における財政状況の将来の見通しを把握（財政シミュレーション）したりする場合に実施する。	p.13
修繕 (しゅうぜん)	老朽化した施設または故障・損傷した施設を対象として、当該施設の所定の耐用年数内において機能を維持させるために行われるもの。具体的には、下水道施設の一部の再建設あるいは取替を行うこと	p.59
受援 (じゅえん)	支援や救援を受け入れること	p.72
循環型社会 (じゆんかんがたしゃかい)	有限である資源を効率的に利用するとともに再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会のこと	p.29 他
浚渫 (しゆんせつ)	河川、湖沼、海域などで、広い面積にわたって水底を掘ることであるが、管路の場合は溜まった泥を除去すること	p.63
小口径管路 (しょうこうけいかんろ)	内径 800mm 未満の管路	p.18 他
小処理分区 (しょうしよりぶんく)	処理分区をさらに分割したもの	p.3 他
使用料単価 (しやうりやうたんか)	P122「経営指標の概要」を参照	p.34
処理区 (しよりく)	下水道での予定処理区域を、処理場ごとの系統に分割した区域を指す	p.2 他
処理区域 (しよりくい)	公共下水道により下水を排除することができる地域（排水区域）のうち排除された下水を下水処理場により処理することができる地域	p.2 他
処理分区 (しよりぶんく)	処理区域を、流域下水道幹線の接続箇所の系統別に分割した区域を指す	p.3 他
人孔 (じんこう)	マンホール(man = 人 hall = 穴、孔)のこと。下水道管の清掃、換気、点検、検査などを目的に設けられるもの。主に、下水道管が合流する場所や、勾配(地面の傾き)、管径(管の太さ)が変化する場所、維持管理上必要な場所に設置する	p.83 他
浸水想定区域図 (しんすいそうていきず)	住民自らの水害への備えや避難に役立てるため、大雨が降った場合に浸水が想定される区域を表示した地図のこと	p.53
浸水被害 (しんすいひがい)	排水区域において、一時的に大量の降雨が生じた場合において排水施設に当該雨水を排除できないこと又は排水施設から河川その他の公共の水域若しくは海域に当該雨水を排除できないことによる浸水により、国民の生命、身体又は財産に被害を生ずること	p.7
浸透 (しんとう)	水などが染み込むこと	p.3
浸透トレンチ (しんとうとれんち)	雨水や排水をろ過浸透させるために、砂利や碎石等を敷いた細長い管や溝のこと	p.23 他

水位周知下水道 (すいしゅうちげすいどう)	都道府県又は市町村が内水による浸水被害が発生する恐れがあるものとして指定する下水道施設	p.79
水質汚濁防止法 (すいしつおだくぼうしほう)	工場及び事業場から公共用水域に排出される水の排出及び地下に浸透する水の浸透を規制するとともに、生活排水対策の実施を推進すること等によって、公共用水域及び地下水の水質の汚濁（水質以外の水の状態が悪化することを含む。以下同じ。）の防止を図り、もって国民の健康を保護するとともに生活環境を保全し、並びに工場及び事業場から排出される汚水及び廃液に関して人の健康に係る被害が生じた場合における事業者の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図ることを目的とする法律	p.27
推進工法 (すいしんこうほう)	地面を掘り起こして管を設置する「開削工法」に対し、推進管（主に鉄筋コンクリート管）の先端に掘進機を取り付け、地中を掘削しつつ、後方の油圧ジャッキで押し進めて、管を埋設する工法 ※図 2-2「長寿命化対策の実施箇所」関連用語	p.20
水洗化率 (すいせんかりつ)	下水道による排水処理が可能な行政区域内の人口を指す処理区域内人口に対し、実際に水洗化トイレを設置した人口の割合	p.2 他
水面制御装置 (すいめんせいぎょそうち)	雨水吐き室に 2 枚の板を設置することで、きょう雑物(紙, 綿, 固形物)を公共用水域に流出することを抑制する装置	p.27 他
スクリーニング調査 (すくりーにんぐちようさ)	区域内の全管渠を簡易的に一通り調査し、致命的な損傷等のある管渠を抽出する調査のこと	p.21
スクリーン	きょう雑物(紙, 綿, 固形物)を取り除く格子状の柵	p.27 他
ストック	下水道事業で保有している施設（管路, ポンプ場等）のこと	p.69
ストックマネジメント	下水道事業の役割を踏まえ、持続可能な下水道事業の実施を図るため、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理すること	p.6 他
スパン	マンホールとマンホールをつなぐ管渠の 1 区間のこと	p.59
生活雑排水 (せいかつざっばいすい)	一般家庭などから出るし尿（トイレからの排水）以外の排水のことで、台所・洗濯・風呂排水を併せた総称 ※図 4-20「浸透ます, 排水設備と公共下水道の関係イメージ図」関連用語	p.83
<b>た</b>		
脱炭素 (だつたんそ)	今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成すること	p.29
タブレット	片面が触れて操作できる液晶画面（タッチパネル）になっており、ほとんどの操作を画面に指を触れて行うことができるパソコン端末のこと	p.35

地域防災計画 (ちいきぼうさいけいかく)	災害対策基本法に基づき、主に災害発生後の組織体制や関係機関との役割分担、経過時間ごとの取組など、総合的な防災対策を取りまとめた計画	p.14
地方創生 (ちほうそうせい)	人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生すること	p.8
地方公営企業法 (ちほうこうえいきぎょうほう)	地方公共団体の経営する企業の組織・財務・職員の身分について定めた法律	p.89
中水道 (ちゅうすいどう)	建物内の一部の排水を浄化処理し、再利用するもの。水道＝「上水道」から流れた水が「下水道」に入る前の中間段階であることに由来する言葉	p.29
中大口径管路 (ちゅうだいいこうけいかんろ)	内径 800mm 以上管路	p.18 他
長寿命化対策 (ちゅうじゅみょうかたいさく)	「対象施設」の一部の再建設あるいは取替を行うことであって、既存の下水道施設を活用し、耐用年数の延伸に寄与する行為	p.20
調布市総合計画 (ちょうふしそうごうけいかく)	まちの将来像やまちづくりの基本理念、基本目標を掲げた調布市基本構想と、基本構想を具現化するための施策や主要事業等を一体的に示した調布市基本計画で構成する総合計画のこと。現行の総合計画は平成 25 年度～令和 4 年度が計画期間となっている	p.14
低炭素 (ていたんそ)	温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめる(カーボン・ニュートラル)こと	p.29
デザインマンホール蓋 (でざいんまんほーるふた)	日本全国各地に存在する、各地域独特のデザインを取り入れたマンホールの蓋	p.74
出前講座 (でまえこうざ)	希望する市民団体に、調布市における現在の制度や取り組み状況を説明する講座のこと。下水道課では、「下水道の未来をお話します～調布市の下水道・今後のあり方～」や子供向けの「下水道のしくみ」についての講座を行っている	p.74
点検・調査 (てんけん・ちょうさ)	点検は、目視や管口カメラ調査等により、下水道施設の状態を把握するとともに、異状の有無を確認すること。 調査は、テレビカメラ調査等により、下水道施設の健全度評価や予測のため、定量的に劣化の実態や動向を確認すること。	P.59 他
投資・財政計画 (とうし・ざいせいけいかく)	施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画（投資試算）と財源見通しを試算した計画（財源試算）を構成要素とし、収支が均衡するように調整した収支計画のこと	p.59
透水性舗装 (とうすいせいほそう)	雨水を積極的に地中に浸透させるため、透水性舗装材等（表層）の下に浸透層を設けた舗装。豪雨時などに起こる下水や河川の氾濫の防止、植生・地中生態系の改善、地下水の涵養等の効果がある。歩道や遊歩道、駐車場、公園等で利用される	p.25
都市型水害 (としがたすいがい)	地表面がコンクリートやアスファルト等の水が浸透しない舗装で覆われている都市において、短時間の局所的な豪雨等の際に、降った雨が地中に浸透せず、一気に下水道や河川に流れ込むことにより発生する水害のこと ※図 4-1「今後考えられる浸水被害軽減対策の例」関連用語	p.53
取付管 (とりつけかん)	雨水ます、または汚水ますから下水道管へ接続する管のこと（取付管が劣化し破損すると、道路陥没の要因となる場合があります。）	p.83

## な

二次災害 (にじさいがい)	事件・事故・災害が起こった際に、それに続いて起こる被害のこと	p.19 他
野川下流部雨水貯留池 (のがわりゆうぼうすいちよりゆうち)	降雨初期の特に汚れた下水を貯留することによる合流式下水道の改善（放流水の水質改善や未処理水の放流回数の削減）のため、東京都下水道局流域下水道本部が平成 25 年度に野川下流部（野川橋付近）に設置した雨水貯留施設（貯留量：約 2 万 m <sup>3</sup> ）	p.27
は		
排水区 (はいすいく)	分流式の公共下水道の雨水管渠又は雨水公共下水道について吐口を有する排水系統が 2 つ以上ある場合において、それぞれの排水系統により雨水を排除できる地域で公共下水道管理者が定めるもの	p.19
排水設備, 宅内排水設備 (はいすいせつび, たくないはいすいせつび)	家庭や事業所などの敷地内に設置し、排出される下水を公共下水道に流し込むために設けられる設備の総称。市が管理する公共下水道と住宅等の物件の所有者が管理する排水設備の両方が備わってはじめて下水道として有効に機能する。	p.25 他
排水樋管 (はいすいひかん)	堤防の中にコンクリートの水路を通し、逆流防止用のゲートが付いた施設のこと。市内には「調布排水樋管（調布市染地 2-52 先）」の 1 箇所がある	p.74
バイパス管 (ばいばすかん)	下水道管への排水量を減らすため、別の下水道管へ迂回（うかい）させる管のこと	p.23
吐け口, 吐口 (はけぐち, はきぐち)	水などが流れていく出口	p.16
標準耐用年数 (ひょうじゆんたいようねんすう)	一般的な使用環境下（下水道では一般的な下水環境の下で適切に維持管理が行われている場合）の耐用年数のこと	p.6 他
風水害 (ふうすいがい)	台風や発達した温帯低気圧に伴う暴風雨によって強風 と大雨による災害が広範囲に入り混じって発生する災害のこと	p.7
不明水対策 (ふめいすいたいさく)	流入下水量のうち、下水道管理者が下水道料金等で把握することが可能な水量以外の下水量を指す不明水を解消するために行う対策	p.62
分流式下水道 (ぶんりゆうしきげすいどう)	汚水と雨水とを別々の管渠に集めて排除する方式	p.3 他
平準化 (へいじゆんか)	ある一定期間の金額や量を均等にすること	p.59
包括的民間委託 (ほうかつてきみんかんいたく)	受託した民間事業者が創意工夫やノウハウの活用により効率的・効果的に運営できるよう、複数の業務や施設を包括的に委託すること	p.61
防災・安全情報メール (ぼうさいあんぜんじょうほうめーる)	市からの緊急情報や地震情報（調布市震度 3 以上）、気象情報（特別警報、警報、注意報）、災害情報、国民保護情報、防犯情報などを配信しているメール。調布市ホームページ（「トップページ」-「いざという時のために」-「メール配信サービス」）から登録が可能	p.75

包摂, 社会的包摂 (ほうせつ, しゃかいきほうせつ)	市民ひとりひとりを、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合うこと。	p.8
放流水質 (ほうりゅうすいしつ)	公共下水道から河川その他の公共の水域又は海域に放流される放流水の水質のこと。下水道法施行令第6条で基準が設けられている	p.27
ポータルサイト	インターネット上の様々なサービスや情報を集約して簡単にアクセスできるようにまとめた、ウェブサイトのこと	p.24

## ま

マイ・タイムライン	台風等の接近によって河川の水位が上昇するときに、住民一人一人が取る標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるもの	p.83
マネジメントサイクル	目標を達成するために計画を策定し、計画通りに実行できたのかを評価し、次期への行動計画へと結びつける一連の管理システムのこと。代表的なものとして、PDCA サイクルや OODA ループといったものがある	p.10
マンホール	「人孔（じんこう）」を参照	p.18 他
マンホールカード	世界に誇れる文化物である日本のデザインマンホール蓋を国民の皆様楽しく伝えるとともに、下水道への理解・関心を深めていただくためのコミュニケーションツールとして発行するコレクションカードのこと	p.32
未処理水, 未処理下水 (みしよすい, みしよげすい)	処理をしていない下水のこと	p.63
水循環 (みづじゆんかん)	水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水・地下水として河川の流域を中心に循環すること。平成26年度に水循環基本法が制定され、人の活動と環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環を維持・回復させる施策を総合的かつ一体的に推進することが定められた。	p.9
民間活力の活用 (みんかんかつりよくのかつよう)	コスト縮減や負担の平準化、市民サービス水準の向上等も含めた改善につなげるため、民間企業等のノウハウを最大限に活用すること	p.22
モニタリング	地域の自然環境の状況について継続的、あるいは定期的に調査を実施すること。ここでは、河川の水質調査などが対象	p.28 他

## や

有収水量 (ゆうしゅうすいりょう)	下水道で処理した水量のうち、下水道使用料の徴収対象となった水量のこと	p.2 他
湧水 (ゆうすい)	地下水が、大地の崖下や丘陵の谷間などから自然に湧き出しているもの	p.12

## ら

ライフサイクルコスト	製品や構造物などの費用を、調達・製造～使用～廃棄の段階をトータルして考えたもの	p.12 他
ライフライン	都市生活の維持に必要不可欠な、電気・ガス・水道・下水道・通信・輸送などを指す	p.9 他
利活用 (りかつよう)	利用と活用	p.5
流域下水道 (りゅういきげすいどう)	二つ以上の市町村の区域にわたる広域的な下水道で、流域内の各市町村から発生する下水を効率的に集めて処理する下水道	p.2 他
流域下水道幹線 (りゅういきげすいどうかんせん)	流域下水道関連市町村の公共下水道幹線から排出された汚水を集めて都道府県が設置する下水処理場へ導く幹線のこと。流域下水道幹線管渠とも言う	p.2 他
流域対策 (りゅういきたいさく)	総合的な治水対策を推進するため、河川や下水道整備とは別に、流域自治体において、降った雨を地中に溜める・浸み込ませることにより、下水道・河川への集中的な流入負担を減らす対策を行うこと	p.26
流域治水 (りゅういきちすい)	河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策のこと	p.54
流域別下水道整備総合計画 (りゅういきべつげすいどうそうごうけいかく)	各都道府県がそれぞれの流域における最も合理的な下水道整備の基本方針を明らかにし、下水道計画区域や事業の実施順位等を定めるもの。したがって、該当する流域内の公共下水道および流域下水道の事業計画は、流域別下水道整備総合計画を上位計画としてこれに整合するように定める	p.2 他
流下能力 (りゅうかのうりよく)	管路として下水を上流から下流に流す能力のこと	p.63
流向計 (りゅうこうけい)	樋門や樋管の流向を検知する計測器。水路内の逆流を検出する。	p.24
粒度調整灰 (りゅうどちょうせいはい)	下水汚泥焼却灰を粉碎加工して粒子を小さく揃えた、汚泥リサイクル品のひとつ。土木工事等で大量に用いられる粘土材料の代わりに利用することができる	p.29
レジリエント	resilient とは弾力がある、柔軟性があること。レジリエント（強靱）な都市とは、災害などのショック（衝撃）にあっても、致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさを持つ都市のこと	p.9
路面下空洞調査 (るめんしたくどうちょうさ)	道路路面の陥没事故を防止するため、路面下空洞探査車等を用いて路面下の空洞状況を把握すること	p.60

## A

ABC 分析 (エービーシーぶんせき)	業務活動を「活動単位」に細分化し、活動単位毎にコストを分析し、改善方策を検討する分析手法	p.31 他
AI (エーアイ)	Artificial Intelligence の略で、人間にしかできなかったような高度に知的な作業や判断をコンピュータを中心とする人工的なシステムにより行えるようにしたもの。人工知能。	p.79

## B

BOD (ビーオーディー)	Biochemical Oxygen Demand の略で、生物化学的酸素要求量のこと。水中に含まれている有機物が一定時間（5日間）、一定温度（20度）の下で微生物によって酸化・分解される過程で消費される酸素量。単位は一般的に mg/L で表す。環境基準では河川の汚濁指標として採用されており、この値が大きいほど汚濁が進んでいることになる	p.28 他
BCP (ビーシーピー)	「業務継続計画(ぎょうむけいぞくけいかく)」を参照	p.26 他
BIM/SIM (ビムシム)	Building Information Modeling /Construction Information Modeling/Management の略 社会資本の計画・調査・設計段階から3次元モデルを導入し、一連の建設生産プロセスにおける受発注者双方の業務効率化・高度化を図るもの	p.79

## I

ICT (アイシーティー)	Information and Communication Technology の略で、日本語では情報通信技術	p.79
------------------	--	------

## L

L 字側溝 (えるじそっこう)	道路及び住宅地の地面の排水に使用されているブロックで、主として歩道の無い街路に多く使われる	p.82
--------------------	---	------

## M

mg/L (mg/l) (ミリグラム パー リットル)	水質等を表す濃度の単位。mg は 1 g の 1000 分の 1	p.28 他
--------------------------------	----------------------------------	--------

## P

---

PDCA サイクル (ピーディーシーイーサイクル)	事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法のひとつ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する	p.71 他
------------------------------	--	--------

## S

---

SNS (エスアイエヌ)	Social Networking Service の略。インターネット上で人と人の社会的な交流（ソーシャル・ネットワーク）を構築可能にするサービスのこと	p.32
-----------------	---	------